

アマダイ通信NO. 71b


(Tile fish network letter)

09年梅の花香る

知人・友人各位

アメリカ合衆国大統領にオバマが就任し、需要喚起の公共支出の大盤振舞いが始まった。ルーズベルトのニューディール政策にも多少の異論があるが、日本の「失われた10年」では、公共事業を大盤振舞したにも関わらず景気は失速したまま、再び深い淵に沈もうとし、借金の山だけが手つかずで残っている。パラダイムの転換が必要ではないか？

◎再び白銀の世界へ・・・今年は大当り？一年ぶりの雪山で貰い事故！

年明け三連休の初日、土曜日、初滑り。昨年正月、同じ「ホームゲレンデ」の奥利根、宝台樹スキー場のシーズン3回目のスキーで、左足ふくらはぎ三頭筋部分断裂の大怪我。3ヶ月の松葉杖生活を余儀なくされ、残りのシーズンを棒に振った。あれ以来のスキーには多少の不安もあるが、生まれて初めてスキーもチューンナップに出し、万全の体勢？で臨む。糞に懲りて膾を吹くというのは、らしくない！？

低い所で軽く足を慣らし、メインのロングコースの山頂に立つ。多少の不安を払いのけるように、前傾姿勢で白い壁に突っ込む。右、左と交互にストックを差し、狭い馬の背の上級コースを滑り下りる。ストックと一緒に体が右、左に倒れ、スキーも向きを変える。内側のエッジが鋭くアイスパーンを削り、雪飛沫を飛ばす。スピードが増し、冷たい空気が高揚した頬に当たる。気分がいい。

頂上に立つと、下から見上げた時とは違って、絶壁のように見える急斜面。見下ろした時の緊張感と沸き立つ闘志。よし！と決断して身を躍らせる時の、スリルと挑戦心。ストックを突き出し、身を傾け、エッジを利かせてターンする時のダイナミズム。他のスキーヤーを避け、追い越し、リスクを取って、長い急斜面を一気に滑り降りるスピードとスリル。ビジネスや起業にも、そして青春時代の学生運動にも通じる。ようやく楽しめるようになったゴルフにはない、醍醐味だ。

いつものレストランでお婆ちゃん手作りの漬物とモツ煮で地酒の水芭蕉を楽しみ、美味しい鴨蒸籠蕎麦で締めてから、半日楽しむ。帰途、藤原ダムサイトの上りカーブで、対抗車がスリップ、曲がり切れずオーバーラン。咄嗟に左にハンドルを切るが、避け切れず衝突。右側後部が引っ込み、ホイールカバーも壊れ、泥除けにも被害。後続車にまで突っ込み、対向車は窓ガラスまで割れる。人的被害がなかったのは幸いだが、山中で一時間パトカー待ち。300円の町営温泉に浸かり、新年早々大当り、今年は何か当たりそう！と、ベンチャービジネスのウッドプラスチックパレットの大ヒットを確信する！？

◎能代港にリサイクルセンター建築へ

この度、第三セクターの能代港リサイクルセンターが設立され、リサイクルポートに指定された能代港に保管ヤードを今秋建て、金属スクラップや石炭灰等、循環資源を取扱うという。後背地に立地する同和鉱業等のリサイクル企業と連携、循環資源の物流拡大とリサイクル関連産業の活性化を図る。国の助成金を得、7月着工、建築費は2億円弱の予定。

同和鉱業の小坂で精錬・処理する都市鉱石（廃家電の基板等）を含めた鉱石や汚染土壌を荷揚げする、最短距離の能代港にストックヤードができれば、青森から能代に荷揚げ機能に移す条件が一つ整う。更にガントリークレーン等が整備されれば、同和ホールディングスの吉川会長が明言するように、青森の荷揚げ機能の能代への移転が可能になる。同和は運送コストを大幅に削減でき、能代にはリサイクル関連の仕事が色々創り出され、雇用も創出されるなど、双方に大きなメリットが出る。

●も三鷹寮の先輩の、同和の吉川会長（当時社長）に能代で講演して頂いたり、豊沢前市長時代も含め、市長との会談を何度かセッティングしたりの努力が、多少実る。更に進んでリサイクルポートの酒田港（山形県）、姫川港（新潟県）とも連携し、日本海沿岸からアジアを睨んだ資源循環の先頭に、故郷が立てればと思う。

◎「水商売」で母校に貢献・・・毎年3千万円寄付！？

小宮山現学長を継いで4月就任予定の、全共闘仲間の浜田次期東大校長に、学長選後初めて会う。三鷹クラブでの講演を快諾して頂くと共に、●の「水商売」の成果を報告。Jパワー（電源開発）が5千万円投資、東大病院の非常用古井戸を改修、浄化施設を作り、都の料金の半値以下で病院の利用水量の25%を供給、年間水道料を3千万円削減、水道システムをツーウェイ化、セキュリティも強化された。浜田君もセキュリティを強化しようと、担当副学長として井戸の改修を検討したことがあるとのことで、大変評価して頂く。

国支給の国立大学経常経費が、毎年数%づつカットされる状況で、大学は財政基盤を強化しようと独自の基金作りに力を入れる。三鷹寮で寝食を共にした「東進スクール」の、株式会社ナガセの永瀬兄弟が1億円近い寄付をしたり、●も牛井の「すきや」を擁する株式会社全商の小川健太郎社長を初め、OBを紹介して協力する。今回大学は電源開発の五千万円の投資でインフラのセキュリティを強化した上、年間三千万円の経費を削減できる。これは、少なくとも十年の契約期間中、毎年3千万、総額3億円寄付するに等しい！リッチな永瀬君はキャッシュで貢献、手元不如意な●は知恵とネットワークで協力する！？

東大は濡れ手に粟！Jパワーも新規事業に進出、●も母校に貢献！「力ある者は力を！知恵ある者は知恵を！」「一人は万人のために！万人は一人のために！」という全共闘精神を地で行く「美談」。が、「東大解体！」を叫んだのは誰だ！おまけに「産学協同反対！」を叫んだ者が、東大発の新技术、ウッドプラスチックを世に送り出そうと知恵とネットワークを動員、東大のベンチャーキャピタルからの出資も仰ぐ。産学協同そのものだ！と、もう一人の●。ソ連崩壊で冷戦体制が終焉、世界がフラット化、大競争時代に入る。他方人間居住環境としての地球への危機意識も深まり、大学を取り巻く状況も激変。大学が再び「知の権威」として社会に、危機の「地球」に貢献できるとするならば、母校に多少なりとも貢献するのも意義があるのではないか？もう一人の●は考える。

Jパワーと●がタッグを組み、●はネットワークと営業力を提供、Jパワーの資金とリスクで井戸を掘り、目白の椿山荘等のホテル、横浜のノースポートなどのショッピングモール、京都駅ビル等の駅ビルに浄水の一部を安く供給、それぞれ年間数千万円の経費を削減した上、水道システムの二元化でセキュリティを強化し、事業者には大変喜ばれて来た。今回国立大学の雄東大の、しかも病院で貢献できる意義は大きい。これまで大阪、金沢、東北、宮崎、旭川医科等の国立大学で同様の提案をさせて頂いたが、経費削減に一義的責

任を負い、日夜頭を悩ませる経営陣は採用に積極的でも、巨大で複雑な大学の組織では末端までその意向が中々伝わらない。プレキャストコンクリートカーテンウォール（外壁パネル）でも、東大病院の建替えて採用して頂いて、全国の大学で採用されるようになった。これからはよりスムーズに、多くの国立大学で貢献できるようになる。

浜田次期学長は薬学部にも井戸があるよ！と語っていたが、白金の医科学研究所、柏、駒場のキャンパスにも同様のシステムを実現、インフラのセキュリティを強化した上、年間3千万円どころか、億円単位の「寄付」ができるようにしたい。そして全国の大学で協力させて頂きたい。駒場の図書館は「書籍の保存のため」ということで暖房が23℃に設定されているが、吹き抜けで天井が高い図書館では寒くて仕様がないと、三鷹寮の後輩が嘆く。消極的で後ろ向きな「ケチケチ作戦」より、前向きで積極的な戦略が必要だ。三鷹寮で1年先輩の、牟田副学長の東工大でも、彼のリーダーシップで打ち合わせが進む。チームから高額な「寄付金」を二番目に受け取ることができる大学はどこだろうか？

◎全共闘40周年・・・「チェ、28才の革命」を見たか？

久しぶりに映画を観る。キューバ革命の英雄チェ・ゲバラとキューバ革命を扱った「チェ、28才の革命」だ。60年代後半、あのキューバ革命の英雄チェ・ゲバラが、盟友カストロと別れてキューバを秘かに離れ、南米のボリビアで新たな革命のためにゲリラ戦を戦っている！「世界の農村が世界の都市を包囲する！」「革命は銃口から生まれる！」という毛沢東の思想に共感、ベトナム反戦！東大解体！を叫び、その先に日本と世界の革命を夢見る若きには、大きな励みだった。

今年1969年1月の安田講堂攻防戦から40周年。何社かのメディアの取材に協力する。あれから40年。紅顔可憐な？革命少年のも還暦を過ぎ、老醜を晒す。チェもボリビアのジャングルで息絶えた。世界各所を旅するだが、世界中で貧困は無くならず、貧富の格差は増すばかり。人間居住環境としての地球の危機も深まる。

銃を担ぎ、野を駆ける若さを失った者は何を為すべきか？幸いにはウッドプラスチックという「緑の銃」を手にする。プラスチックと木屑を混ぜてウッドプラスチックという新たな素材を造る。8割までが大鋸屑の、安価で丈夫、温度変化に強いバイオマスプラスチックは建材など多彩な用途がある。取り敢えず搬送用のパレットに仕立てて世に出す。エコビジネスで革命を！緑の革命を世界に！ボルテージ揚がる。チェに感謝！

◎のシリア・ヨルダン紀行・・・シルクロードを点から線に！

シリアの首都ダマスカスは世界最古の町の一つ、7千年前の遺構もあるという。ヨルダンの首都アンマンも歴史の古さでは負けていない。この正月休みはシリア・ヨルダンに行くことにする。振り返ればこの数年、唐の都西安（長安）から始まり、敦煌、ウルムチ、トルファンと旅し、一昨年夏はイラン（ペルシア）、去年の夏はウズベキスタンに足を運んだ。気が付けばシルクロードを転々としていたことになる。井上靖の小説に心躍らせた少年の頃の想いが蘇ったか？ならば点を線に繋げよう。取り敢えず戦火の続くアフガニスタンとイラクは無理だ。シルクロードの西の果て、地中海を目指すことにする。

アフリカの大地溝帯に産声を上げた人類が、進化を遂げながらエジプトから更に北上、地中海とユウフラテスの大河に挟まれた地、メソポタミアに文明の華を咲かせた。以来、

この地には余りにも多くの民族が去来し、数多の文物が取引され、幾多の王朝が栄えては滅びた。栄枯盛衰は世の習いとは言え、都度激しい摩擦が起こり、多くの血が流され、無数の英雄譚と幾倍かの悲劇が産まれた。ヒーローとヒロインの世界へ飛ぶ。

①カタールは出稼ぎの国。ドーハは人種のるつぼ！

ビールのないドーハ空港で七時間の乗り換え時間を潰すのは大変。ドーハ空港は人種のるつぼ。レストランの厨房はインド、中国、アフリカンで男だけ。客は日、米、欧も混じり、チャイニーズはアフリカや中東へ出稼ぎか？小柄なインドネシアの若い女性。同じイスラムの中東でメイドの出稼ぎか？入国のセキュリティで「こんにちは」と声をかけて来たのは、日本にもいたというパキスタン人。出稼ぎで成り立つ国だとよく分かる。

3時間のフライトでダマスカス着。小さく古ぼけた空港。トイレには便座がなく、3ドルでハイネケンを飲む。昔の日本の田舎の駅を思い出させる、待合室のベンチの合成皮革の表面は破れ放題。至る所にアサド大統領親子の肖像。クーデターで政権を握り30余年間独裁を敷いた父のバース党政権を、父の死後、現在42才の医者だった息子が継いだ。「社会主義」を標榜するが、生産手段の国有と一党独裁を社会主義と考えるエセ社会主義者。

中国人かと思っていた飛行機前席の三人連れの家族。到着ゲートに数人のスーツ姿の出迎え。胸元に赤いバッジ。北朝鮮の要人か？シリアは北朝鮮の数少ない友好国。北朝鮮からの核の持ち込みも疑われる。先頃その「核施設」をイスラエルが空爆した。公然たる秘密の自分の核武装は棚に上げて。

②前線の国へ

シリア・ヨルダンに行くというと、決まって大丈夫なの？と質問される。確かにパレスチナの問題は未だ解決されず、その方向性すら見えない。ツアーの間にもイスラエルがパレスチナのガザ地区を空爆、多くの命が奪われた。ヨルダンはかつてパレスチナゲリラの根拠地となり、イスラエルが攻撃、結果、ヨルダンとパレスチナゲリラの激しい戦闘の場となり、現在も難民キャンプには多くのパレスチナ人が暮らす。

シリアもイスラエルとアラブとの中東戦争の当事国として、ゴラン高原がイスラエルに占領されたままだ。今回の旅は前線の旅になる。大丈夫かと心配するのもわかる。だが所詮は商業ベースのバックツアー、危ない所に行く筈がないと、リスク判断は他人に任せ、そのくせ、きな臭い所を見れるのはありがたいと、野次馬根性を丸出しにする。

だが、砂漠の中でたまに目にする掩蔽壕や撮影禁止の軍事地帯を除けば、シリアでできる臭さは感じない。ヨルダンに入ると機銃を構えた四駆が街をパトロール、ホテルの入口で手荷物をX線検査するが、緊張感はさほど感じない。チノ？と呼び掛けられるのは、シルクロードで中国と昔から繋がるからか？日本の存在感の薄さのせいかな？

③エフェソかパルミラか？

ツアー4日目の29日は目玉のパルミラ遺跡観光だ。ダマスカスのスーク（市場）の地下の素敵なレストランで、野菜主体の前菜と、少しのチキンとラムの「ぶっかけ飯」を肴に3ドルのノンアルコールビールで喉を潤し、砂漠の中を中国シェンロン製のバスで230キロ走り切った時は、たっぷり日が暮れる。

陽が西に沈んだからと期待した月は東から上らず、駱駝と王女の影も見えない。一灯だにない砂漠の満天に小さな星々が煌めく。星が輝きをひそめるにつれ、パルミラの遺跡群が光の塊となって姿を現す。異邦人には昼と同じに見える遅い夕食を、3ドルのアムスピールのショート缶とグラス5ドルのレバノン白ワインで楽しむ。明日陽の光で見るより、ライトアップされた方が綺麗よね！食後、遺跡を歩いて巡る。皆、撮影に余念がない。

その遺跡を翌日バスと徒歩で巡る。とにかく広い！日本を含む国際調査隊の手で発掘が進むが、まだ数分の一も発掘されていないという。が、女王ゼノビアが拠った一際高い山頂のアラブ城から見渡すと、広大な砂漠に数々の宮殿、神殿、祭殿や列柱、巨大な多層式墳墓が散らばり、圧巻だ。トルコで見たエフェソスの遺跡をも圧倒する迫力だ。

④年間雨量60 ミリの地で雨に遭う

夕陽を拝もうとアラブ城に上るが生憎雲が空一面を覆い、早目に退散。土産物屋を覗く。夕食まで時間があるので軽食堂の店先でビールを頼む。生が1杯5ドルだという。ホテルのレストランでもハイネケンが3ドルだと粘り、4ドルにさせる。同行者2人も加わり、持参の百円ショップのつまみで酒盛り？が始まる。シャッターを押してもらったお礼にポラロイドを撮ってやると、底に粉？が残る独特のコーヒーをご馳走してくれる。

万事が早く運び、夜も昼と同じレストランでビールと5ドルの白ワインを一杯飲み、酔った勢いで8時半には寝てしまう。12時頃目を覚まし、シャワーでも浴び、日本から持参のワンカップでも寝酒に飲むか、と起きようとするとう電気が消える。よく停電するとは聞いていたが、初体験だ。夜中だからか自家発電の気配もない。もう一度寝付けずにいる内に電気がつく。カーテンで囲っただけの狭いブースでシャワーを浴び、日本酒を飲み直し、再び寝床に入る。

朝食の席での会話によると、昨夜は10時頃にも停電したらしく、この時は直ぐ自家発電機が動いたが、騒音がひどかったという。外に出ると路面が濡れ、水溜まりも。年間降雨量60ミリの町で珍しく雨に遭う。

⑤朝暗い 5時にアザーン、イスラムは働き者？！

朝5時というのに、お祈りを呼び掛けるアザーンの音が闇夜を裂いて響き渡り、目を覚ます。ここはパルミラ。シリア砂漠の真中に花開いたオアシス都市。地中海とシリア内陸部、更にアラビア半島やメソポタミアを結ぶシルクロードの要衝として繁栄した。特にBC1世紀末からAD3世紀にかけ、中国とヨーロッパを結ぶシルクロードの隊商都市として栄華を極め、30万の人口を誇ったという。今は人口7万の観光と農業の小都市だ。

荒城に月は上らず、残された神殿や宮殿、列柱が闇夜にライトアップされ、美しく浮かび上がる。古来、早起きは三文の得。夜は早く寝、朝早く起きて日の出と共に働けば稼ぎも増え、豊かになれる！と。しかし、272年クレオパトラも足元に及ばぬ才媛を謳われた王女ゼノビアが、三度の戦いの末にアウレリアヌスのローマに屈した後は、六世紀以降、ウマイヤ朝、アッバース朝のイスラムの支配の下でも再びの繁栄はなかった。

十代で隊商として頭角を現し、25才で認められて15才年上の未亡人のスポンサーと結婚、利に聡い開祖モハメッドの教えを忠実に守りながら、彼らはなぜ往時の豊かさを取り戻せないのか？朝まだき、モスクはアッラーに祈りを捧げる人々で一杯だ。町の名前の由来と

いうナツメヤシ（ギリシャ語でパルマ）は昔と変わらずたわわに実る。王女の胸に似て。

⑥肖像画家の多い国

シリアからヨルダンへ、陸路国境を越える。シリア側はフリーパス、ヨルダン側に乗用車が数珠つなぎになり、トランクを開け野菜や果物まで日用品を広げる。シルクロードの民、隊商の末裔の面目躍如？関税と物価水準の彼我の差が産む運び屋稼業？時代遅れの重商主義ビジネスが国境一つ挟み成り立つ。そこに経済的問題が見て取れる？

我々もバスのトランクからスーツケースを引っ張り出しX線検査。免税店で缶ビールを買う。1本1ドル、ロング缶1・8ドルと安い。シリア砂漠のパルミラからダマスカスへ戻り、地中海沿いに南下、国境を越えアンマンに。年間降雨量60ミリの砂漠から600ミリは降る地中海性気候の世界へ。緑が増え、オリーブやアーモンド、時に葡萄の木まである石ころだらけの畑に、所々キャベツ等の野菜畑。世界が変われば生活も住む人も、宗教も変わる。

荒地に天幕を張り放牧するイスラムのベトウィンと、多様な人種、宗教、生活様式が入り組む豊かな沿海部。未だナショナリティを持ち得ぬリージョンをナショナルたらしめようとするのか？寒村出の軍人から身を起こし、血なまぐさい政変を繰り返し権力を確立した、アサド二代の大統領と、片やマホメットの血を引くという、由緒正しいハシミテ王家の王の肖像画が、両国には溢れる。

⑦ペトラ、再び砂漠へ

旧約聖書、いやそれ以前からの遺跡の残る世界を彷徨えば、見るべき歴史には事欠かない。その頃日本は何時代だったと落ち込む輩もいるが、考えれば当たり前。4百万年前アフリカで頭角を現した人類の祖先アウストラピテクス・アフリカヌスは、150万年前に火を発見、百獣の頂点に立つ。まず大地溝帯を北上、エジプト文明を華咲かせ、次にメソポタミア文明を築く。人類の二足歩行の距離と時間を考えれば、彼我の文化に数千年の差があるのは当たり前。腹一杯食べて飲み、次に飲み食べてできるまで二足で歩ける距離を考えれば、パルミラにしる、ペトラにしる、今あるような砂漠の真中に突然出現する筈がない。

少なくとも人間の時間軸で考えたとしても、人類の祖先がさほど頭を悩まさなくとも水と食糧が手に入り、簡単に身を隠し、夜の寒さを凌ぐことができる程の水と緑に恵まれていた筈。でなければ彼らは次の希望の地へ移るよりも、豊かなその地で凄惨な生存競争を繰り返すだけで、地球の表面に周く存在することもなかった。それとも学説には反するが、人類は多少の時間差はあるにしる、地球上に同時多発的に発生したのか？

飛行機とバスを乗り継ぎ、砂漠の中の広大な岩山を削り貫き神祭殿や宮殿、ローマ劇場の廃墟が散らばるペトラの大遺跡群を足で巡り考える。希望を求め、破壊と殺戮を繰り返し、懲りずに今も同じ地でそれを繰り返しているのか人類よ！と。

⑧死海を泳ぎイスラエルへ！

出エジプト後40年間の彷徨の末モーゼが辿り着き、臨終の地となったネボ山頂から遥か見下ろした死海へ、夕闇を降りる。「イスラエル建国」以来60年、3次中東戦争から40年。イスラエル建国が米欧の帝国主義的策謀によるものであれ、それぞれを完全に殲滅するまで戦うのはもはや非現実的ではないか？世代も代わり、共存を模索する潮流もある。パレ

スチナとイスラエルの平和共存はできぬか？故郷を追われたパレスチナ人にはイスラエル・英・仏・米が経済的損失を償い、三教徒が対等の条件で平和に暮らせぬか？パレスチナ人のガイドに問うが、ノンだという。

リゾートホテルで夕食後、ベリーダンスを久しぶりに楽しむ。カイロ、イスタンブールに続き三度目。無料のショーだが雰囲気につられカクテルを頼む。死海に因み？その名もブルー。メニューの7の数字を見て14ドル出すが28ドル要求される。メニューの数字はヨルダンディナーだという。それにしても1ディナー2ドルとは切り上げもいいところだ。

翌朝、いよいよ死海へ。汚れ切った乾季のラオスのメコン川で、ピリピリ痛んだ大腸癌の手術跡が又痛まぬか気になるが、幸い何事もなく、塩分30%の死海に浮く。何時の日か、浮いたまま対岸のエルサレムに辿り着くことが、できるようになるだろうか？

◎農の営みとアジアとの連携・・・団塊ネット(D-net)勉強会のご案内

講師：片山元治氏 アグリビジョン事業協同組合代表理事、ファーマーズユニオン北条取締役
（株）地域法人「無茶々園」前代表、NPO 法人研修生招聘協会 副代表

片山さんは大学卒業後に帰農。農薬の恐ろしさを実感し、35年前から手探りで有機農業を実践して来た。代表的産物の柑橘類は、無茶々園ブランドで日本中に広く知られている。農産物・食文化・地域文化の密接な結び付きを第一義に、有機農業に流通をセットした農業の発展を国内外で目指す。これによってWTOに負けない豊かな地域農業が実現すると確信している。

現在、農業問題は「自給率向上」と「農業雇用」、さらに「安心安全」問題で注目を浴びる。しかし、これらの表面的な問題の底には、現代社会における「農の営み」とは何かという、基本問題が横たわっています。日本農業のグランドデザインを考えるには、自立し実践してきた農業者の声を聞く必要があるでしょう。

D-netでは、35年前から有機農業を実践、更に南の国の農家と連帯、ベトナムに農業研修施設・日本語学校を設立して、ベトナムの若者に「地域に根付いたアジア農業の豊かさを伝える」片山さんに、日本農業の再生と、さらにベトナム農業との連携について語っていただきます。

日時：2009年3月4日(水) 18時30分～21時(開場6時)

場所：学士会館本館310号室(千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5936)

アクセス：<http://www.gakushikaikan.co.jp/info/access.html>

会費：3,000円(会場費、軽食・飲み物付)、別途二次会あり。当日会場でお支払いください。

主催：団塊政策研究ネットワーク(代表：干場革治)

申込締切：2月25日(水)メールまたはFaxで、お名前と連絡先をご記入下さい。

取りまとめ：D-net世話人 伊藤 Email: june18sunday@yahoo.co.jp

携帯電話：090-3683-1947 / Fax：047-463-6327

◎住友電装のグローバル経営・・・第83回三鷹クラブ定例懇談会(大阪)

2006年秋、技能五輪大会の募金活動で、四日市の住友電装本社に下川 忠社長(現顧問・S36年入寮)を訪ねた。三鷹クラブの御縁もあり快く御協力頂いた上、会社の状況につき伺った。同社が、ワイヤハーネス供給で世界の3指に入り、30カ国に生産拠点、14万人の従業員を擁する、まさにグローバル企業であることを初めて知った。是非三鷹クラブでのお話をとお願ひし、今回ようやく実現した。折しも世界不況の嵐が、各国の自動車産業に襲いかかっており、部品メーカーとしての同社も甚大な影響を蒙り、

経営陣は想像を絶する御苦勞をされていると思う。そうした面についても、お話頂ければ、私達には大変有難い。下川さんの寮時代のことについては、同期入寮で、寮委員長長をしておられた浜田 卓二郎さん（現弁護士）にお願いした。（以上 平賀記）

「昭和36年、下川君と私は同期入学で東大の駒場にある一般教養課程の学生になった。出会いは東大三鷹寮であった。武蔵野の面影を豊かに残した、馬場もある三鷹市内の旧制東京高校の跡地に展開する古い木造の寮に、東大の一年生と二年生（中には牢名主のように住みついた先輩学生もいた。）の学生3百余名が住んでいた。完全自治寮ということで、学生の食事をまかなう食堂の経営、売店の経営、風呂の準備、駒場までの学生バスの運行、寮内の治安維持（警察の立入りは許さないと言い張っていた。）まで、選ばれた寮委員会が取り仕切ることになっていた。そこで、たまたま私が寮委員長選に立候補する羽目になり、対立候補がいたかどうか記憶にはないが、寮委員会10名の委員を選任することとなった。自薦他薦のある中で、委員を何とか引きうけてくれたのが当時の小玉 忠君（今の下川君）であった。

それから一年間、仕事もし、一緒に鯨飲し、寮委員室を中心はずっと一緒に暮らすことになった。岡山出身の本来田舎者であるはずだが、他も田舎から出てきたばかりの連中が多かったせいか、下川君は、洗練されたスマートな青年という印象であり、逸早く流行り歌など覚えてきて皆に聞かせていたのを覚えている。仕事は要領がよく、テキパキといかにも頭もスマートだなどと思わせる人であった。学校の成績がどうだったか、お互い気にもしななければ、話題にもならないので知らなかったが、住友グループで社長までやったのだから、多分良かったのだろう。いずれにせよ下川 忠君は私の青春そのものであった。（昭和36年入寮・浜田 卓二郎）」

日時： 平成21年3月18日（水） 18時30分～21時

場所： 大阪弥生会館（大阪市北区芝田2丁目4番53号 電話 06-6373-1841）

交通： JR大阪駅中央北口から徒歩5分 JR西日本本社そば

会費： 5000円（夕食・飲物付き）

申込先： 平賀俊行・干場革治 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

有限会社ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎北京から一時帰国の津田君と木曾路でしゃぶしゃぶ

土曜スキー、日曜ゴルフでは「脳弱体強」に磨きがかかる。週末の日は図書館で経済誌等読み、勉強する。二月の頭の日曜日、図書館閉館後新宿で、一時帰国の人民大学留学中の津田君と、帰化した中国人留学生の汪（三王）君に木曾路でしゃぶしゃぶを振舞う。

津田君が寮の後輩の永瀬君の、東進ハイスクールの(株)ナガセから出した中国語教本「聴読中国語」（千9百円、初刷八千）を頂く。永瀬君も中々いいことをする。会社では「天皇」と呼ばれているらしい彼が、三鷹寮の先輩だと知って津田君も吃驚。

津田君は北京でも、陳君や王君等の寮 OB と付き合いがあり、汪君と二人で日中の寮 OB のネットワークを広げ、浜田新学長が北京へ行く時は🐼も同行、皆で同窓会をしようとして、話が弾む。中国語クラス同期の宮内東大北京事務所長にもご協力頂きたい！再見！